



トップ直撃インタビュー

石光商事

荒川正臣 社長

コーヒー・茶類飲料、食品事業を主力とする食品商社・石光商事。25 年 4 月、荒川正臣氏に社長のバトンが手渡された。就任から 3 カ月が経過した荒川社長に、社として目指す姿について聞いた。

(聞き手 宮本美智子)

「20 年以上、コーヒー畑で営業職を務められた。社長に就任しての所感、何をミッションとするか、会社の存在意義として、」

「世界の食の幸せに貢献する」ということを掲げてきたが、グループ社員が「世界をつなぐ、食で幸せを届けるコンシエルジュのような存在」になれればと考えている。そのミッションを果たすには、社員に主体的に動いてもらうことが重要になる。主体性を育むことを目指し、オンラインで月例 MTG を始め

た。グループ各社や部・室をまたいで社員同士が同じテーマについて話し合うことで、自分自身が考え、行動につながる力をつける。また他者からの気づきも生まれる。こうしたことを通じて社員のこれからの変化に大きな期待を持っている。

面を想定し、どうすれば喜んでいただけるかという部分まで見せて提案することが重要だと考えている。

「主力のコーヒー事業ではどう存在感を出すか、」

「コーヒーについては、生産地が半減するといわれている 2050 年問題の原因となる気候変動を起こす G

食で幸せを届けるコンシエルジュに

「コロナ禍を経て、生活様式が変わったが、食品産業に与える影響は」

「外食産業では、店舗の役割が明確で、かつ、一消費者の TPO のニーズに明確に応えられることがさらに重要になっている。例えば飲食が、ついでのなか、主目的のなかによって店選びは決まる。中食でも同様のことと言える。とりあえずのおかずの一品なのか、おつまみなのか。我々は主に川上に近い原料を取り扱っているが消費される場

H G 排出量の低減に取り組んでいる。原料においては生産者と一緒に窒素肥料の低減に取り組んだり、二酸化炭素の排出量が少ないプロセスで作られた化学肥料を使うことを推奨したりしている。こうして栽培された原料がブラジルとコロンビアから入荷し始めている。焙煎加工においてはアライドコーヒーロースターズのグリーン焙煎で G H G 排出量低減を目指す。これはコーヒーグラウンズ (コーヒーの抽出時に出る

め、一人当たりの生産性を高めていく。もう一つは、やはり魅力ある会社でないといけない。我々の取り組みを広く発信して、同じ価値観を持つ人を集めたい。

「SDGs について取り組みは」

「SDGs については、一人当たりの生産性を高めていく。もう一つは、やはり魅力ある会社でないといけない。我々の取り組みを広く発信して、同じ価値観を持つ人を集めたい。」

「SDGs については、一人当たりの生産性を高めていく。もう一つは、やはり魅力ある会社でないといけない。我々の取り組みを広く発信して、同じ価値観を持つ人を集めたい。」

「SDGs については、一人当たりの生産性を高めていく。もう一つは、やはり魅力ある会社でないといけない。我々の取り組みを広く発信して、同じ価値観を持つ人を集めたい。」

「SDGs については、一人当たりの生産性を高めていく。もう一つは、やはり魅力ある会社でないといけない。我々の取り組みを広く発信して、同じ価値観を持つ人を集めたい。」



令和 7 年も早や半分が過ぎ、雑節の「半夏生」真只中。週明けには二十四節気の「小暑」を迎える。小暑は、梅雨明けが近づき、徐々に暑さが増してくる時期とされるが、もうとつくに猛暑が何日も続いている

「10、20 年後、食品商社業界はどう変化しているか。また、貴社の対応は」

「我々が掲げる 2030 年のありたい姿に、「日本が認めるいい食品企業グループになろう！」というのがある。社会課題を解決しながら、皆様に幸せを届けつつ、ビジネス展開をしていく。今後、経済や社会、環境の変化により、国内外の食品業界も様々な変化を余儀なくされるだろう。そうした変化をしっかりとらえ、課題に取り組むながらサプライチェーンが一緒になってビジネスを回す。そのためにはグループ社員のみならず、「世界をつなぐ、食で幸せを届けるコンシエルジュのような存在」でありたいと考えている。

「SDGs については、一人当たりの生産性を高めていく。もう一つは、やはり魅力ある会社でないといけない。我々の取り組みを広く発信して、同じ価値観を持つ人を集めたい。」